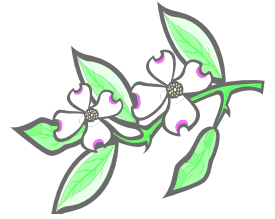


# 学生相談室だより



第3号

2002. 4. 1 発行

御入学、御進級おめでとうございます。吹く風もやさしく、あちこちに花が咲いて…周りのものが活気づく春が今年もめぐってきました。新入生の皆さん、新しい生活にゆっくりなじんでいきましょう。在校生の皆さんもマイペースで新しい学年になじんでいければいいですね。4月から新しいカウンセラーの先生が来られます。時間がある時、相談室ってどんなところか、訪ねて下さい。特に相談ごとがなくても遊びに来ていいところですヨ。

## < カウンセラーからのひとこと >

### 『人間のもつ潜在力を信頼して…』

学生時代に、障害児のグループワークに関わっていたことがあります。その中で、ダウン症の子供さんのお母様とお話する機会があったのですが、話の中で強烈に印象に残っている言葉があります。そのお母様は、その子供さんの事を「自分達夫婦にとって宝子（たからご）です」と言われたのです。詳細は忘れたのですが、その子供さんの事でいつも御夫婦で話し合っているおかげで、夫婦間のきずなが日々強まり、夫婦ゲンカをすることもあんまりないという意味の事を言われたと思います。障害児をかかえた大変さ、つらさしか想像していなかった私にとって、その言葉は新鮮な驚きでした。もちろん、そういう気持ちになれない時もあるでしょうし、そこまでの心境になられるまでには、様々な葛藤を経て来られたことと思いますが、その後の臨床においても例えば「アル中になってよかった」とか「不登校になってよかった」など、似たような言葉を聞く事も珍しくありません。そういう言葉を聞くたびに、結局、幸、不幸を決めるのは、その出来事自体にあるのではなく、その人の受けとり方、心の持ち方次第なんだという事を学ぶとともに、人間の持つ潜在力、可能性に感動を覚えます。そういう人間の心の奥底に秘められた潜在力を信頼して、人との関係を深めていきたいと思う今日この頃です。

川浪由喜子（火・木曜日担当）



### 『こころのへその緒』

はじめまして。4月から学生相談をさせていただくことになりました。

日常の雑事に追われ、現実の出来事についての会話ばかりになっている時、子どもは突然、熱が出たり、頭が痛い、お腹が痛いなどと言いはじめます。親にとっては思いもかけぬ時に…なのですが、子としては必然なのかもしれません。「ちょっと忘れていたことなあい？」と問いかけられているように感じる場合があります。どうも親子というのは『こころのへその緒』のようなものでつながっているような気がしてなりません。

思春期・青年期は親から分離・個体化していく第二の時期ですが、『こころのへその緒』について整理できた時、「私らしい私」に出会えるのではないかと思います。その時はじめて対等な親子関係、友人関係、異性関係が結べるのではないのでしょうか。自分探しのお手伝いが、ほんの少しでもできれば…とっております。

浅香佐輝子（水曜日担当）



### 『特別な日。』

新しい年度が始まりました。新入生の皆さんは期待と不安でドキドキさせ、学年が変わった皆さんは気をひきしめていることでしょう。毎年、年が変わると、旧い年を振り返りつつ新しい年の抱負を考えるものですね。昨年までのことは清算されたような気がして、新たに一から始めようと期待にワクワクしながら、壮大な目標を掲げたりします。だから、4月はとても特別な日。始業日は特別な日。

そういう「特別な日」は、ほかにも誕生日だったり何かの記念日だったり、人によってさまざまだと思います。365日のうちのその一日だけは、立ち止まってその「特別」な意味について考える日。でも「特別な日」に感じたり考えたりしたことは、残りの364日を過ごすうちに、徐々に色あせてしまいがち…。

毎日、「今日は特別な日」と思うことができれば、一日一日をもっと大切に、丁寧に生きることができるとも知れませんがね。

昨年はたくさんの方とお会いすることができました。今年も、皆さんのこれからの一日一日が充実したものとなるよう、お手伝いできたらと願っています。

平井ゆり（金曜日担当）

## \* 学生相談室 \*

場 所：S棟4階 博物館の奥

開室日：火・木曜日 12:00~16:00 川浪由喜子  
水曜日 12:00~16:00 浅香佐輝子  
金曜日 12:00~16:00 平井 ゆり

